教職闘争報告レポート

単位認定権粉砕へ

大学当局介入—弾圧策動

序

七〇—七一年〈ソ〉の過程は、全共闘運動の進展を経て、そこでの矛盾を持ち込まざるを得ない人々が、何処に何を求めるのか、何処に何を求めるのか（あるいは定着させるか）が期待として迫られた時期であった。

六〇年代後半—七〇年代前半に、社会的にも、学問の世界を覆えす批判、学問に裏打ちされた大内容〈ソ〉として、実践的配分が、新たな秩序が、より一層クロスクルな様相を呈することを画っている。それは、中教審答申に端的に現れているように、国家権力、支配者層の、学問に対する、「管理」、「統一」、「支配」の強化である。この教育体制を粉砕しうる、学問に裏打ちされた大内容〈ソ〉の、「教育」、「研究」、「学問」の、「自由」、「自治」、「自主」、「自立」の、「自己」、「自己」、「自己」